試　験　地　設　定

区　分	自主課題

森林技術センター

（様式）

開発課題	野兎被害の簡易な防除技術			期　間	自Ｈ９年度 至Ｈ12年度		
開発目的	造林地における野兎の被害を回避するため、簡易な防除技術を施しその回避技術を解明する。						
設　定	場　所	営林署	森林事務所	国有林	林小班		
		宮　崎	青井岳	鰐　頭	８４ぬに4		
	数　量	面　積	数　量				
	設定年月日	平成１０年３月末		終了年月日			
	担　当	営林局	森林技術センター　業務第一係				
		営林署	課　　係				
地況及び気　象	標　高	方　位	傾　斜	基　岩	土壌型	土　性	
	６８０m	西	急	砂　岩	ＢＤ(d) 偏行土		
	深　度	堅密度				地　位 スギ	ヒノキ

林況	林　令	林　種	樹　種	混交率	胸高直径	樹高	材積(ha)	本　数
	７４	人工林	ヒノキ クロマツ	９８ ２			３９８ ９	２，５５３ １４
	相対照度	下層植生						
	設定前の施業経緯	平成９年度技術開発課題「生産課題」 課題名：トラクタによる小伐区の低コスト集材技術の確立 平成９年度製品生産資材						
全体計画	１，新聞紙等による方法・水性ペイントによる方法・末木枝条による方法等 ２，各方法及び対象区等との比較							

記載要領　１．区分は示、自主、任意課題別とする。
２．全体計画欄は年度別、実施事項及び目標、また、試験等の指導関係を記入する。

（様式２）

試　験　地　設　定

区分　森林技術センター

実　施　計　画	試験地設定図　青井岳　２５４は林小班
１，試験地設定 ヒノキ短伐期施業技術導入試験（３０年伐期品種）試験地内に設定 ２，防除方法 ア，ヘキサチューブ防除法 イ，古新聞紙を造林木の長さに切り、両端を筒状にホッチキスで止め、竹を支柱にし造林木に被せる（インクによる忌避効果を期待） ウ，飼料用の紙袋を造林木の長さに切り、両端を筒状にホッチキスで止め、竹を支柱にし造林木に被せる エ，水性ペンキを造林木の幹や枝に塗布する オ，造林木の周囲に末木枝条を立て防除 カ，ビニールネットを造林木に竹を支柱にし被せる キ，防雀テープを支柱に巻き造林木の回りに３本程度立てる ク，モグラ脅しを造林地内に立てる ３，対象区 同一小班内に設定 ４，試験地標示 全体標示看板１基（1.5m×2.0m）	試験地位置図

記載要領　１．実施計画は設定方法及び作業法方等具体的に記入する。

（様式３－１）

試　験　経　過　記　録

区　分	自主課題

森林技術センター

平成９年度実施内容

１，試験地設定

ヒノキ短伐期施業技術導入試験（３０年伐期品種）試験地内に設定

２，防除方法

ア，ヘキサチューブ防除法（市販の製品を１／２及び１／３程度に切って使用）

イ，古新聞紙を造林木の長さに切り、両端を筒状にホッチキスで止め、竹を支柱にし造林木に被せる（インクによる忌避効果を期待）

ウ，飼料用の紙袋を造林木の長さに切り、両端を筒状にホッチキスで止め、竹を支柱にし造林木に被せる

エ，水性ペンキを造林木の幹や枝に塗布する

オ，造林木の周囲に末木枝条を立て防除

カ，ビニールネットを造林木に竹を支柱にし被せる

キ，防雀テープを支柱に巻き造林木の回りに３本程度立てる

ク，モグラ脅しを造林地内に立てる

３，対象区

同一小班内に設定

４，試験地標示

全体標示看板２基（1.5m×2.0m）（0.6m×0.4m）

※同一小班内に試験地を４箇所設定のため４課題を一斉標示

考察

獣害の中でも、シカによる害と同様に野兎被害も大変深刻な問題となっている。今回実施した簡易な防除方法により良好な駆除成果が得られるのを期待している。当試験地の隣接造林地も、野兎の激害を受け防除対策に苦慮しているところであり、試験成果を期待しているところである。

平成１０年度実施内容

１，経過観察

当試験地は、ヒノキ短伐期施業導入試験地内に設定しているが、平成１０年度は野兎による食害は発生しなかった。

防除方法別には、古新聞・飼料用紙袋・モグラ脅し防除法は、強風のため破損したが、古新聞は、雨により濡れ落ちたあとのインクにより忌避効果及び、飼料用紙袋も一定期間の効果があるのではないかと考えられる。

考察

試験地内で野兎の糞を多く確認したが、被害が発生しなかったことから考えると、一定の効果があるのではないかと考える。

平成１１年度に各防除法の補修手直しの実施をしたいと考えている。

記載要領　１　調査結果及び考察を記入する。

２　状況写真は別途整理する。

（様式３－１）

試　験　経　過　記　録

区　分	自主課題

森林技術センター

平成１１年度実施内容

１，経過観察

平成１１年１１月に経過観察調査を実施した。

ヘキサチューブは設置後２年余りが経過し雨水により劣化し破損しているものが見受けられる。野兎による食害は、トラクタ集材路跡地周辺で僅かに見受けられる。ビニールネットの支柱に足を乗せて食害を受けた造林木が数本あった。

考察

隣接のイヌエンジュ・ヤマザクラ植栽試験地の野兎被害が植栽木の殆どに及んでいるのに対し当試験地の被害は軽微であり試験効果が現れていると考えられる。

である。

記載要領　１　調査結果及び考察を記入する。

２　状況写真は別途整理する。

（様式３－１）

試　験　経　過　記　録

区　分	自主課題

森林技術センター

平成１１年度実施内容

１，経過観察

平成１１年１１月に経過観察調査を実施した。

ヘキサチューブは設置後２年余りが経過し雨水により劣化し破損しているものが見受けられる。野兎による食害は、トラクタ集材路跡地周辺で僅かに見受けられる。ビニールネットの支柱に足を乗せて食害を受けた造林木が数本あった。

考察

隣接のイヌエンジュ・ヤマザクラ植栽試験地の野兎被害が植栽木の殆どに及んでいるのに対し当試験地の被害は軽微であり試験効果が現れていると考えられる。

平成１２年度実施内容

１，経過観察

対象区での被害発生が９割程度に及んでいる。

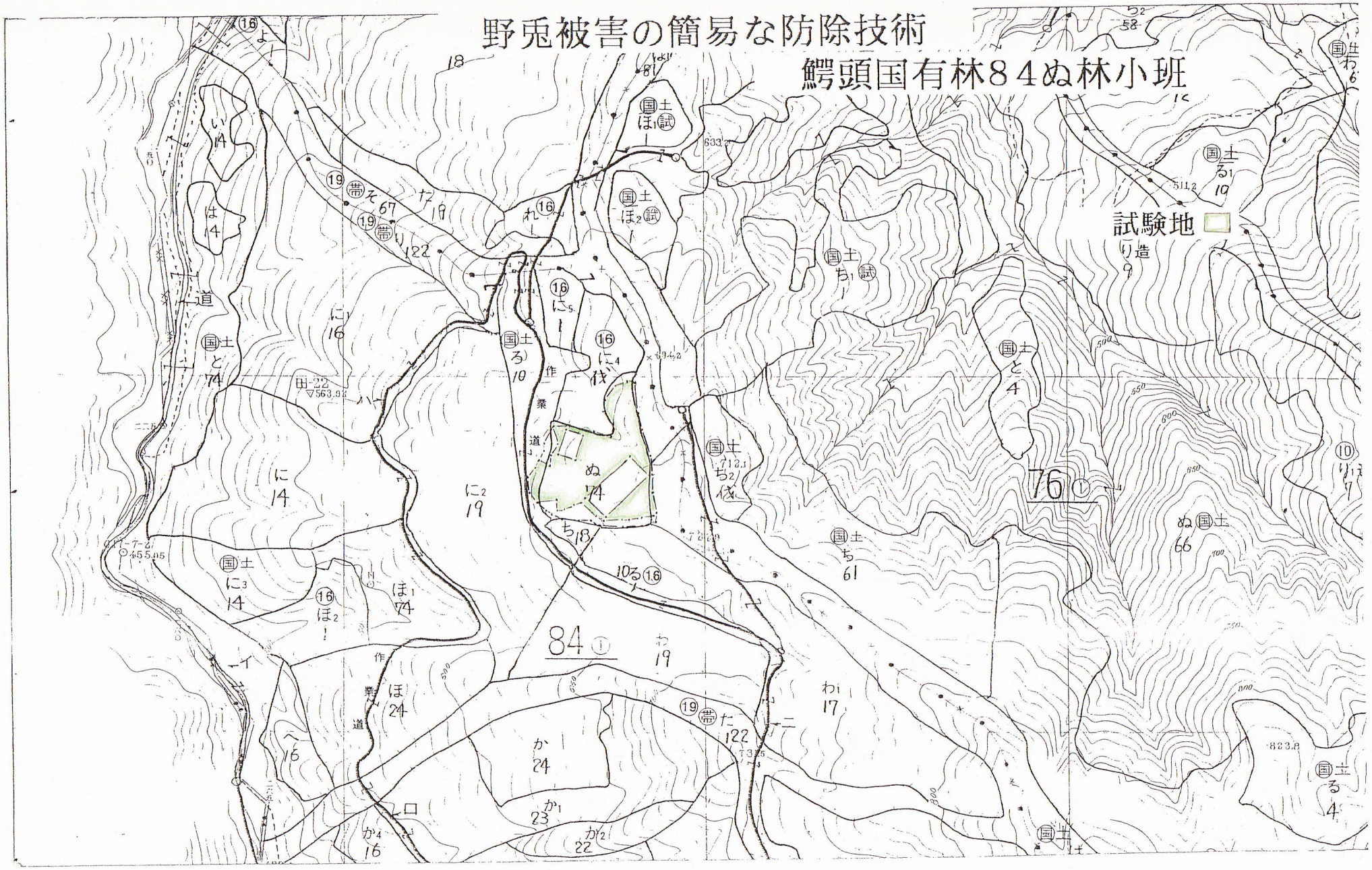
考察

対象区に比べ被害の発生頻度は少ないようであるが，各防除方法により被害の発生状況が異なり，防除効果に差があるようである。

記載要領　１　調査結果及び考察を記入する。

２　状況写真は別途整理する。

平成9年度技術開発箇所位置図



平成９年度技術開発実施報告書

様式２－２

課題名	野兎被害の簡易な防除技術				
課　題　区　分	自　主　課　題	開発個所	青井岳国有林 ８４ぬに$_4$林小班 （ぬ）	開発期間	平成９年度 ～ 平成１２年度

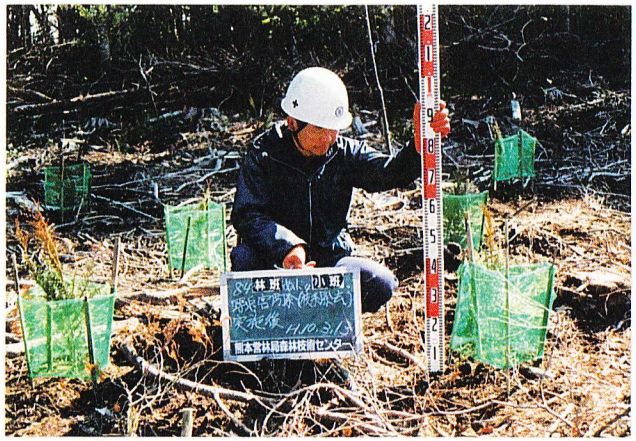
当年度別実施計画	当年度実施報告
１，試験地設定	１，試験地設定 ヒノキ短伐期施業技術導入試験（３０年伐期品種）試験地内に設定 **防除方法** ア，ヘキサチューブ防除法 イ，古新聞紙を造林木の長さに切り、両端をホッチキスで止め、竹を支柱にし造林木に被せる ウ，飼料用の紙袋を造林木の長さに切り、両端をホッチキスで止め、竹を支柱にし造林木に被せる エ，水性ペンキを造林木の幹や枝に塗布する オ，造林木の周囲に末木枝条を立て防除 カ，ビニールネットを造林木に竹を支柱にし被せる キ，防雀テープを支柱に巻き造林木の回りに３本程度立てる ク，モグラ脅しを造林地内に立てる
２，対象区設定	２，対象区設定 同一小班内に設定
３，試験地標示	３，試験地標示 全体標示看板２基(1.5m×2.0m)(0.6m×0.4m) ※同一小班内に試験地を４箇所設定のため４課題を一斉標示
４，実施結果	４，実施結果 当試験地の、隣接造林地は野兎食害の激害を受け防除対策に苦慮しているところであるが、当試験地の試験成果を大変期待されるところである。

状況記録写真

区分	自主

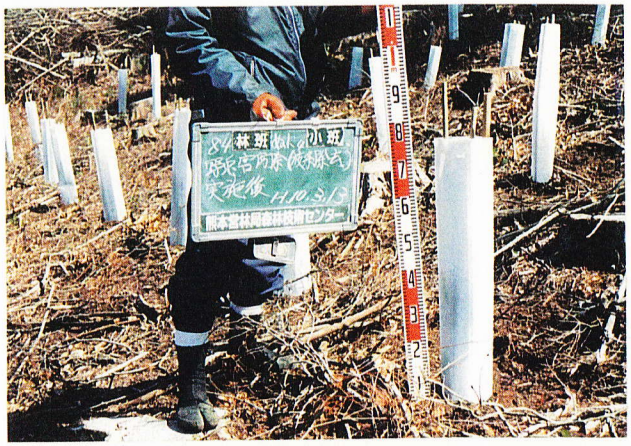
（様式６）

森林技術センター



ビニールネット

飼料袋



ヘキサチューブ

ビニールネット

飼料袋

ヘキサチューブ

平成9年度８４ぬに4野兎防除試験

地拵（枝条除去）

状 況 記 録 写 真

区分	自主

（様式６）

森林技術センター

遠景

遠景

古新聞

防雀テープ

モグラ脅し

平成9年度８４ぬに4野兎防除試験　地拵（枝条除去）

状況記録写真

（様式６）

区分	自主

森林技術センター

ペンキ塗布

末木枝条

ヘキサチューブ

実施前

古新聞

飼料袋

平成9年度８４ぬに4野兎防除試験

地拵（枝条存置）

状況記録写真

（様式６）

区分	自主

森林技術センター

白ペンキ塗布

末木枝条

実施後遠景

実施前

古新聞

平成9年度８４ぬに4野兎防除試験

末木枝条及びモグラ脅し

地拵（枝条除去）